

平成21年度 県内外国出身者アンケート調査結果

〈調査概要〉

1 調査の趣旨・目的

県内在住の外国出身者が日常生活においてどんなことに不便を感じ、どんな支援を必要としているか等についてアンケート調査し、今後の多文化共生社会の実現に向けて外国出身者に対する効果的な支援のあり方や必要な関係機関の連携等を検討する上で参考にする。

2 調査対象者

県内在住の20歳以上の外国出身者

(ただし、「短期滞在者(※1)」及び「特別永住者(※2)を除く」)

※1・・・日本国内に90日以内の滞在を予定する者

※2・・・戦前から日本国内に居住する朝鮮半島及び台湾出身者で平和条約により国籍を離脱した者とその子孫

3 調査期間

平成21年5月1日～5月31日

4 調査方法

各市町村の国際交流担当、市町村教育委員会及び小中学校、県教育委員会及び県立高校、民間団体、企業等を通じて調査票を配布

5 調査票の言語

4言語(やさしい日本語、英語、中国語、タガログ語)で実施

6 配布・回収結果

配布部数:976

回収数 :457(回答率:46.8%)

(財)鳥取県国際交流財団

〈本 所〉

〒680-0947 鳥取市湖山町西4-110-5 鳥取空港国際会館1階

TEL(0857)31-5951 FAX(0857)31-5952

〈倉吉事務所〉

〒682-0802 倉吉市東巖城町2 中部総合事務所

TEL(0858)23-5931 FAX(0858)23-5932

〈米子事務所〉

〒683-0043 米子市末広町294 米子コンベンションセンター1階

TEL(0859)34-5931 FAX(0859)34-5955

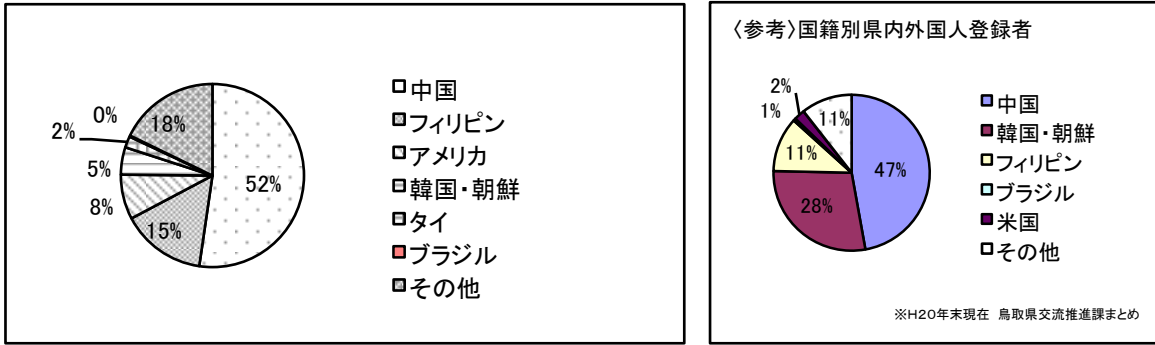


宝くじは
豊かさ築く
チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に役立てられています。

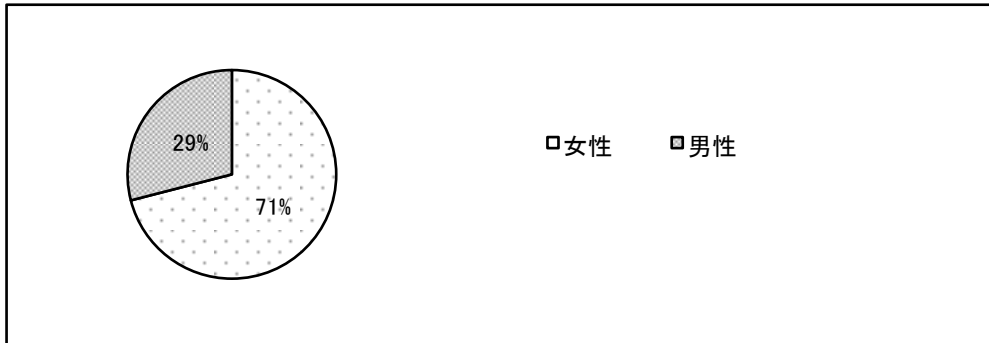
1 ご自身について

問1 出身国をおしえてください



(※今回行った調査の対象に特別永住者は含まれていないため、県内外国人登録者に占める韓国・朝鮮籍の者の割合に比し、回答者に占める韓国・朝鮮出身者の割合は低くなっている。)

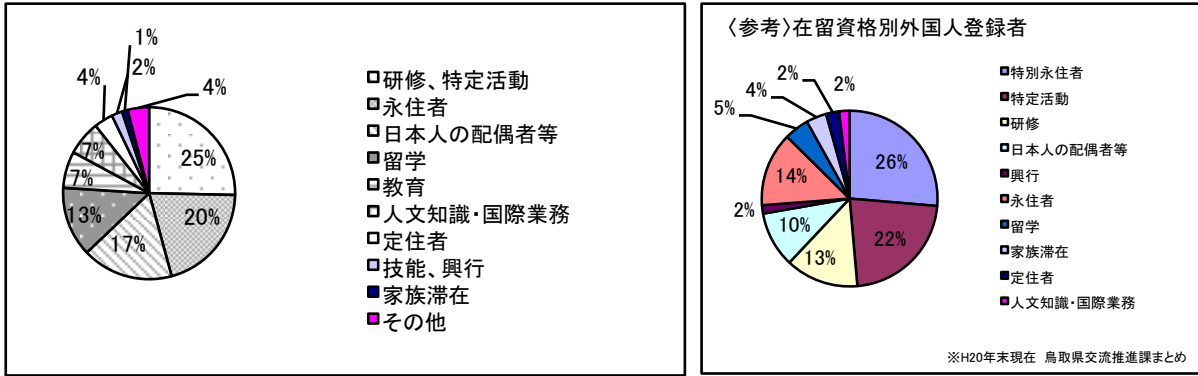
問2 性別をおしえてください



問3 年齢をおしえてください

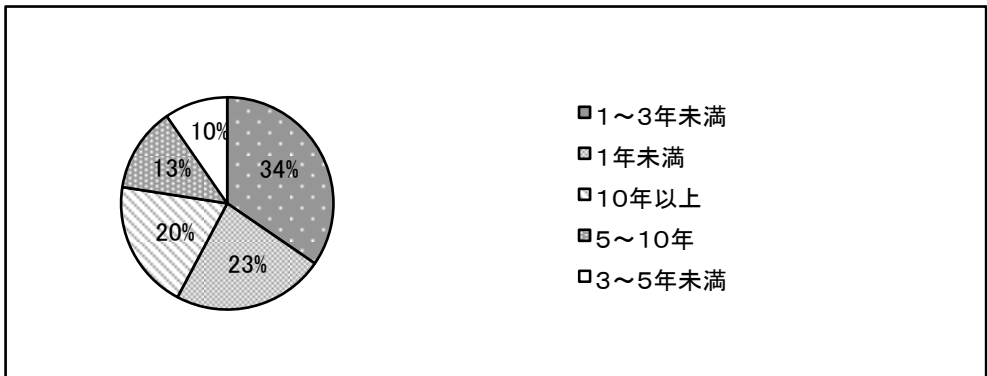


問4 在留資格をおしえてください

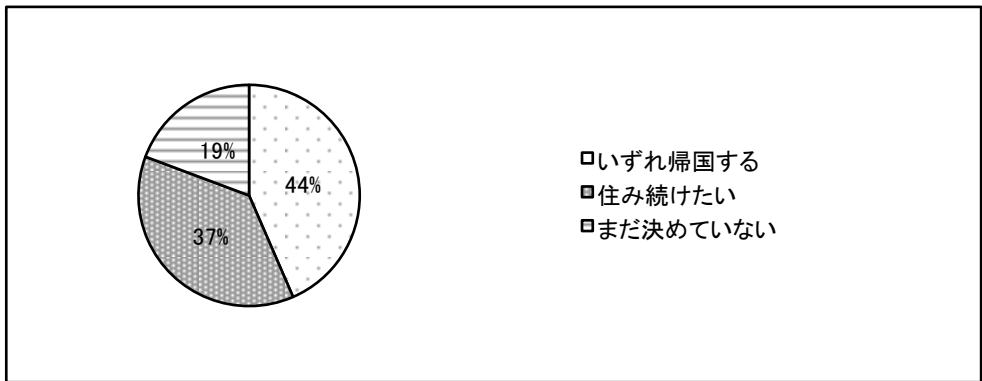


県内在住の外国出身者で最も多いのは企業で働く研修生・実習生。次に多いのが特別永住者を除けば日本人と結婚するなどして定住、永住している人。

問5 日本に来てからどのくらいになりますか？

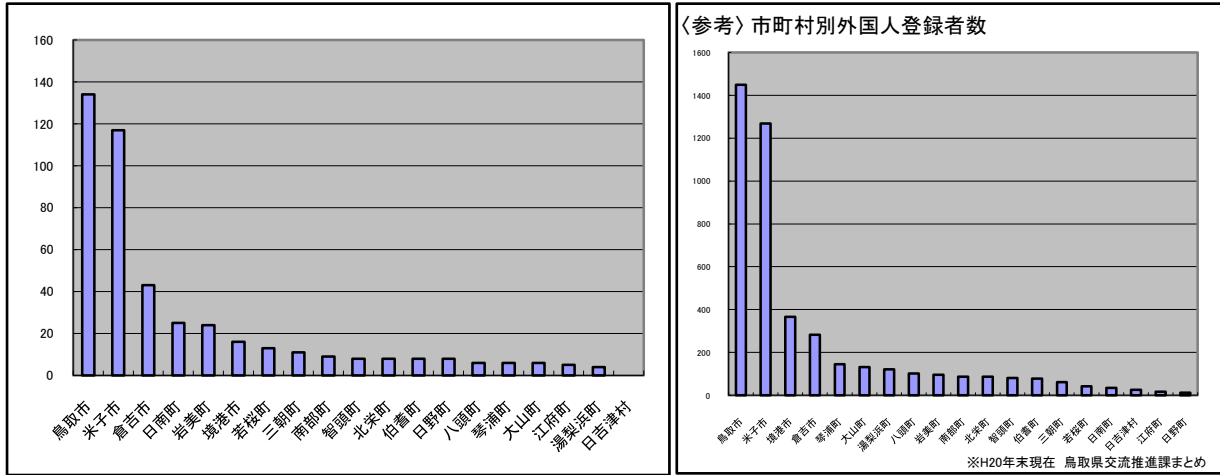


問6 今後も日本に住む予定ですか？



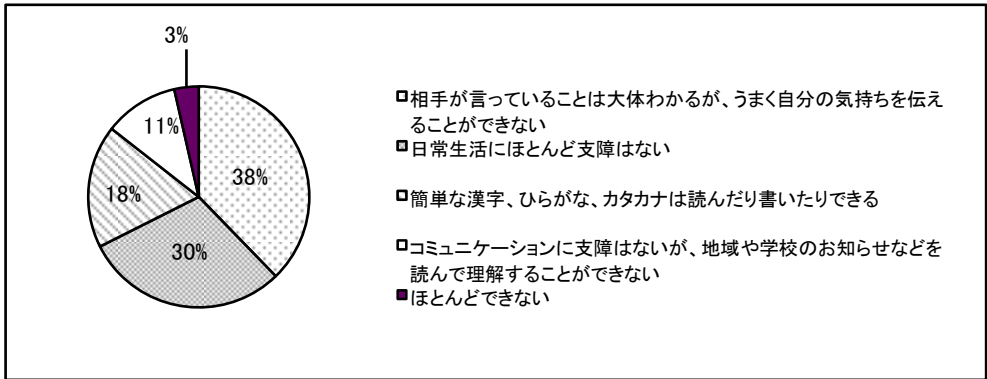
「日本に住み続けたい」という回答が全体の37%を占め、さらに、帰国の時期は「まだ決めてない」という答えと合わせると過半数を超えている。さらに、「いずれ帰国する」の中には、企業研修生・実習生など自分の意思とは関係なく滞在期間が限定されている人が多数含まれている。

問7 住んでいる市町村をおしえてください



2 日本語について

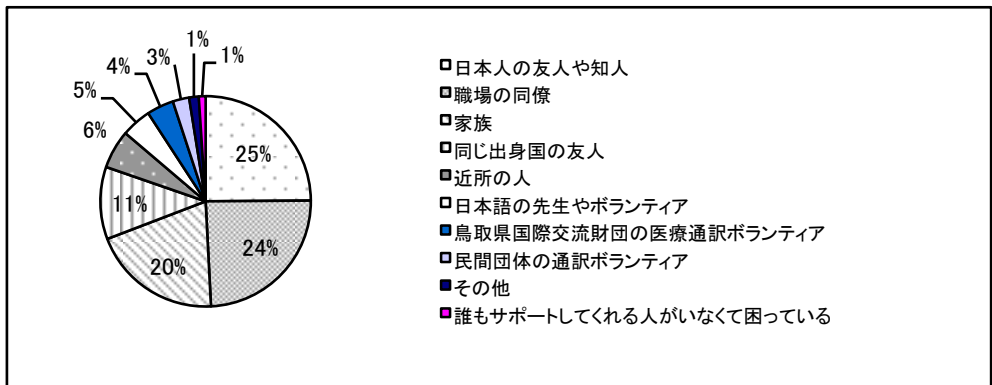
問8 あなたは日本語がどのくらいできますか？



「日常生活にほとんど支障はない」「簡単な漢字、ひらがな、カタカナは読んだり書いたりできる」と答えた人が48%いる一方で、52%の回答者が日本語を読んだり、自分の気持ちを伝えることに不自由を感じている。

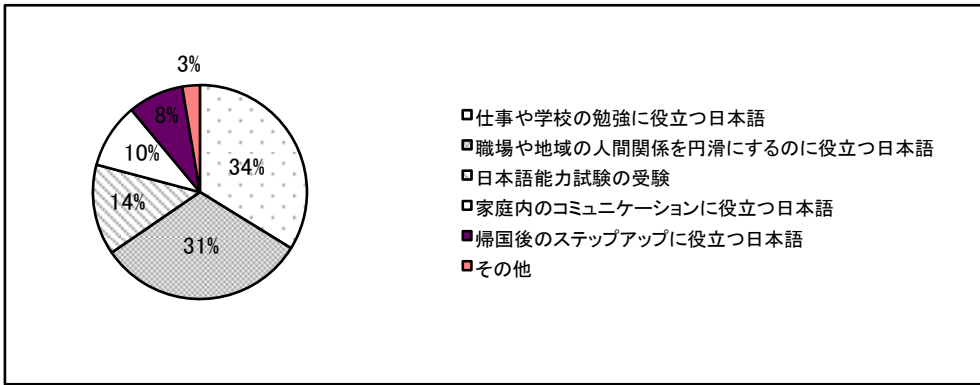
(問8で2～5と回答された方にお聞きます)

問9 日本語がうまく伝わらなくて困ったとき、誰にサポートしてもらいますか？(複数回答可)



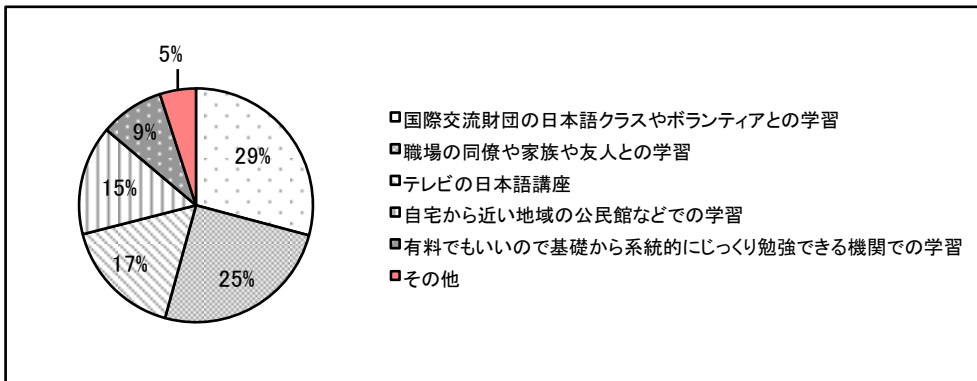
「日本人の友人や知人」「職場の同僚」と回答した人が同じ割合で最も多く、次いで「家族」の他に「同じ出身国の友人」や「近所の人」など自分の身近な人にサポートしてもらっている。

問10 あなたは今、どのような場面で役に立つ日本語を学習したいと思いますか？(複数回答可)



「仕事や学校の勉強に役立つ日本語」「職場や地域の人間関係を円滑にするのに役立つ日本語」「家庭内のコミュニケーションに役立つ日本語」など実用的な日本語が必要とされている。

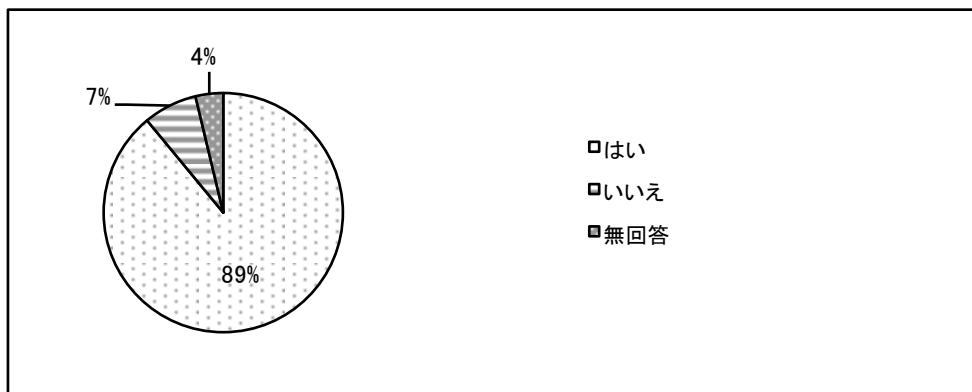
問11 あなたはどのような方法で日本語を学習したいと思いますか？(複数回答可)



日本語クラスやボランティア、職場の同僚や家族・友人などと一緒に学習する人との交わりを通じた学習を求める人が多い。

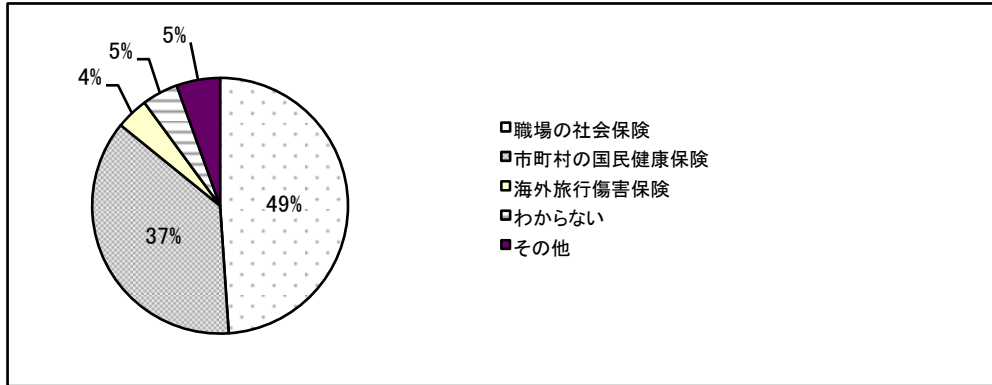
3 医療について

問12 あなたは現在、健康保険に入っていますか？



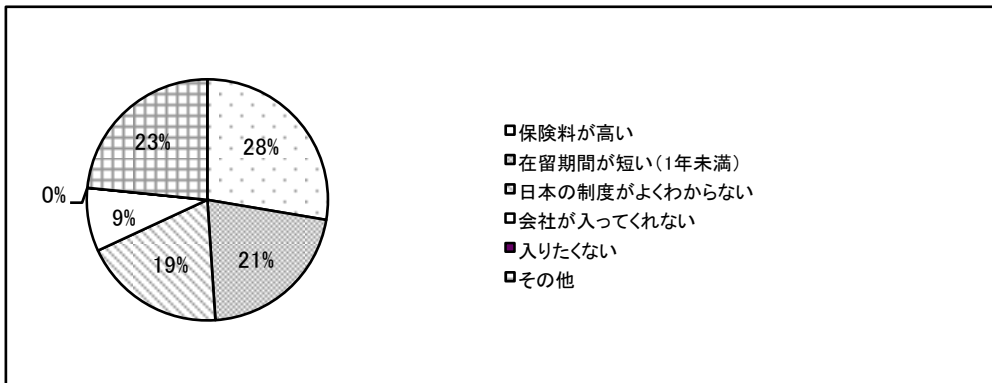
(問12で、1「はい」と答えた方にお聞きます)

問13 どんな保険に入っていますか？



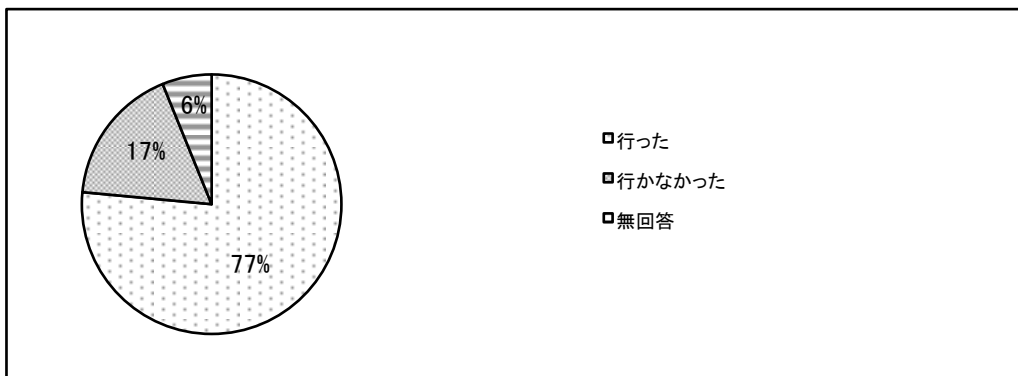
(問12で、2「いいえ」と回答された方にお聞きます)

問14 保険に入っていない理由は何ですか？

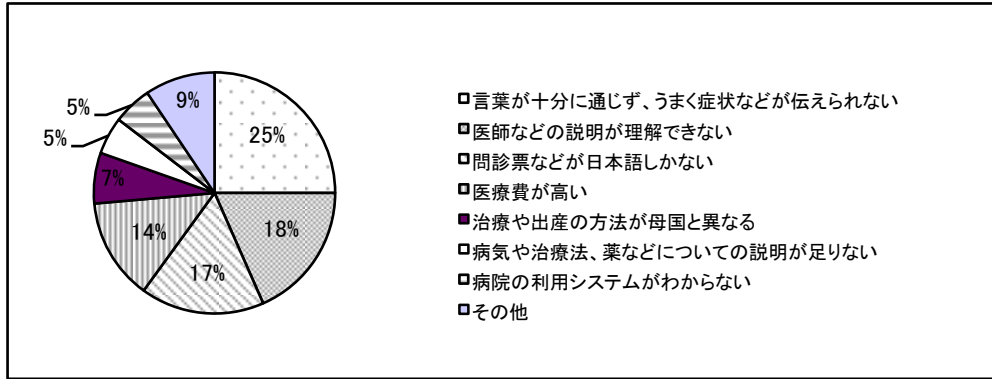


「日本の制度がよくわからない」ために保険に入れない人もいることから、日本の制度について説明を受けることのできる支援が必要と考えられる。

問15 あなたや家族は病気や怪我などで日本の病院に行きましたか？

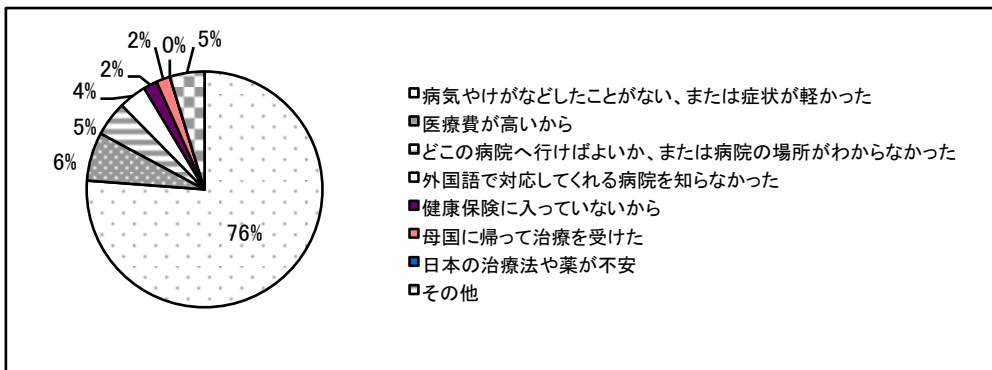


(問15で、1「行った」と回答された方にお聞きます)
 問16 病院で困ったことはありましたか？(複数回答可)



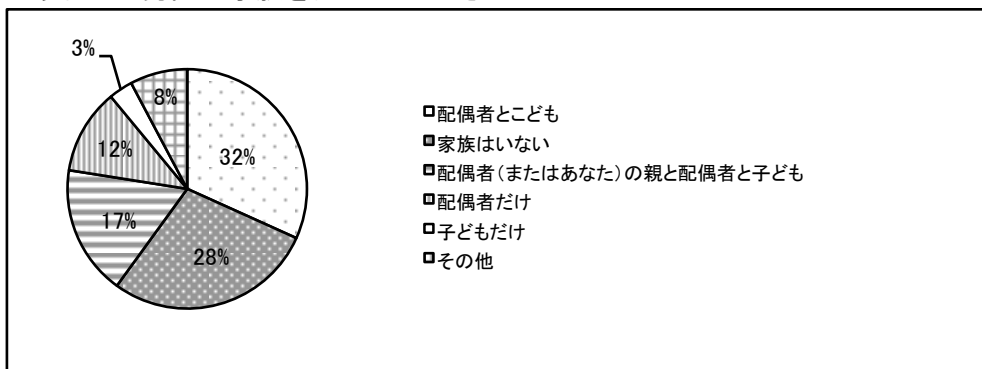
「言葉が十分に通じず、うまく症状などが伝えられない」が最も多く、次に多い「医師などの説明が理解できない」「問診票などが日本語しかない」を合わせると約6割の人が日本語による意思の疎通に何らかの不都合を感じている。

(問15で、2「行かなかった」と答えた方にお聞きます)
 問17 病院に行かなかったのはなぜですか？(複数回答可)



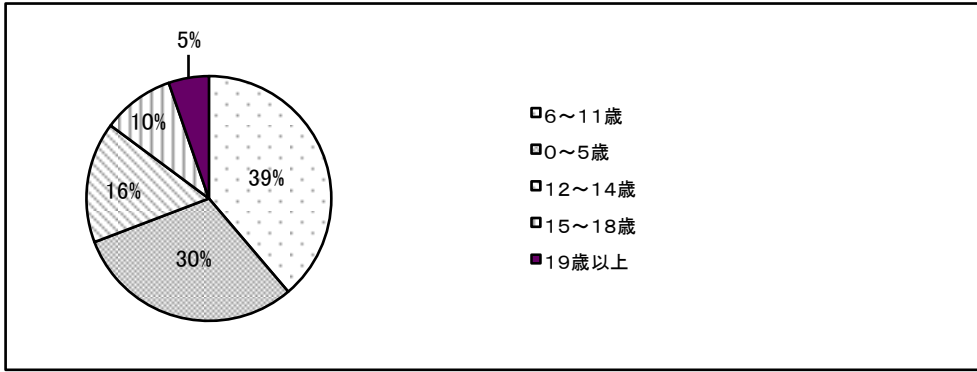
4 育児と教育

問18 あなたの現在の家族をおしえてください



(問18で、1及び2、4(子どもがいる)と回答された方にお聞きします)

問19 お子さんの年齢を教えてください

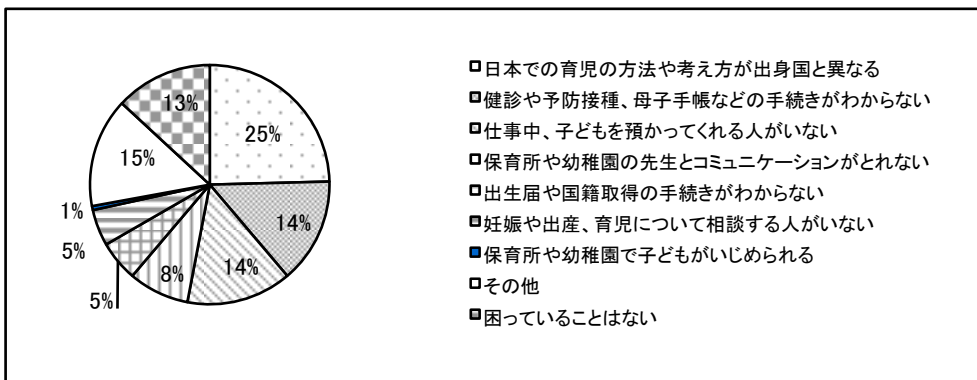


問20 お子さんは主にどの言葉で話していますか？



「あなたの母国語」「日本語とあなたの母国語の両方を同じくらいに話す」を合わせた52%の人が子どもに自分の出身国の言葉を使わせている。

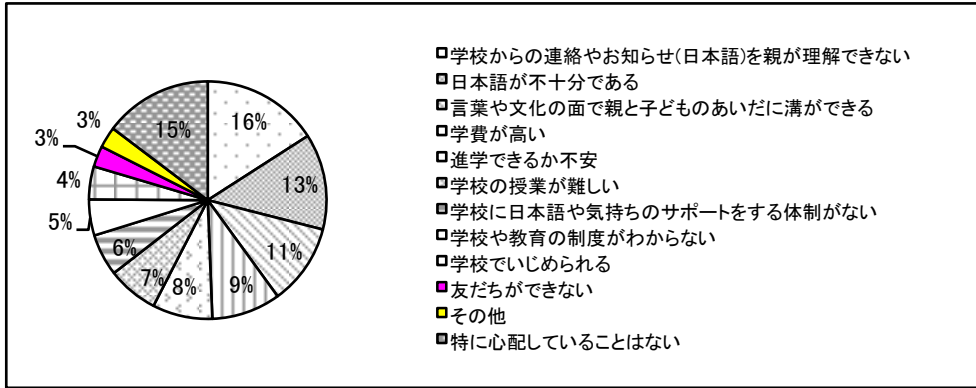
問21 日本での出産や育児で困ったことや現在困っていることはありますか？(複数回答可)



育児の方法や考え方が母国と違うことに戸惑っている人が多く、他にも子どもの健診や母子手帳など日本の制度や各種手続きがわからなくて困っている人も多い。さらに仕事上の子どもの預け先に困っている人もある。

(6歳以上の子どもがいる方にお聞きします)

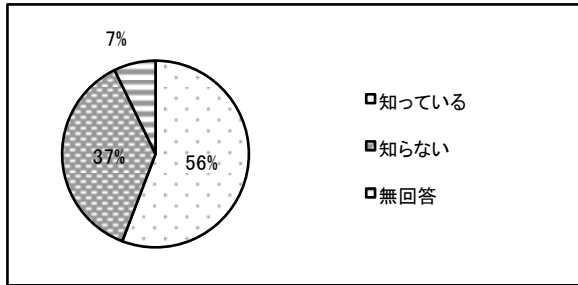
問22 子どもの教育について心配したことや現在心配していることはありますか？(複数回答可)



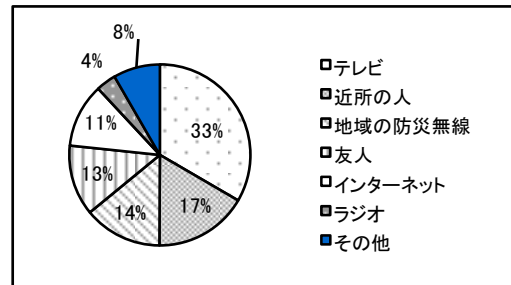
「特に心配していることはない」と回答した人は135人中34人で、多くの方は様々な心配事を抱えている。中でも「学校からの連絡やお知らせ(日本語)を親が理解できない」「言葉や文化の面で親と子どものあいだに溝ができる」といった親自身に関する事で心配している人が目立ち、子どもについては日本語が不十分であることに起因する心配事が多い。

5 災害

問23 大規模な地震や台風などのとき、避難する方法や場所を知っていますか？



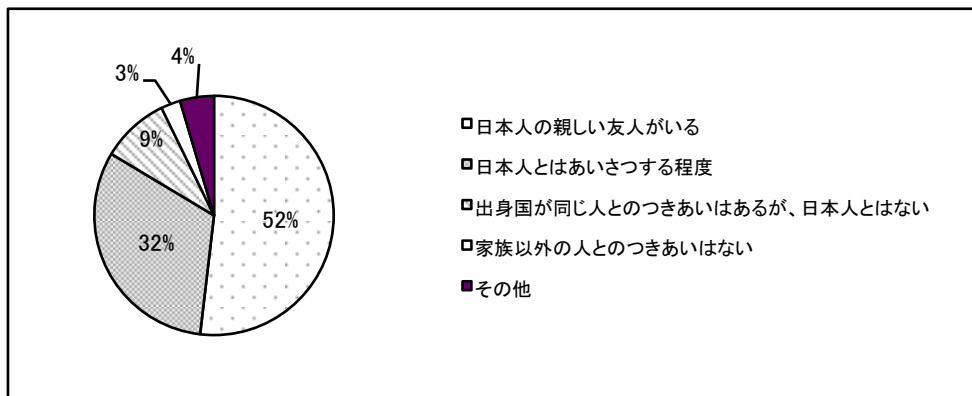
問24 避難情報はどのように入手しますか？



回答者の56%が災害時の避難方法や場所を「知っている」と答えており、さらに避難情報の入手先として回答者の約3割が「近所の人」または「地域の防災無線」と答えており、外国出身者でも一部の人は地域の防災体制に支えられていることが窺われる。

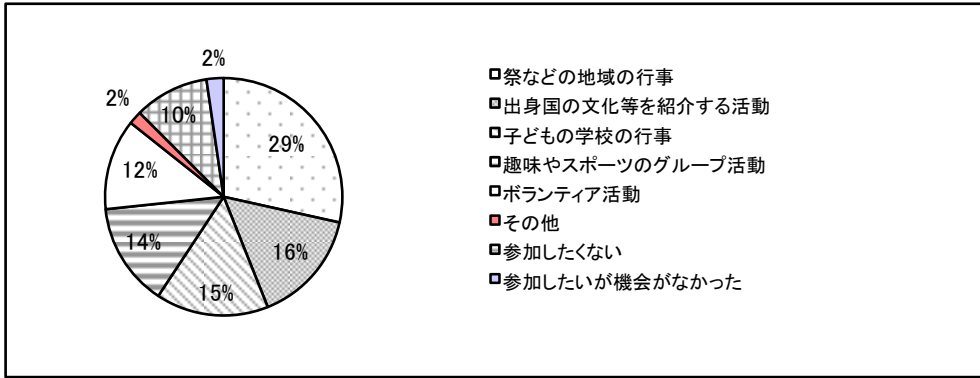
6 日本人とのつきあいについて

問25 家族以外の人とどの程度つきあっていますか？



「日本人の親しい友人がいる」人が約5割を占める一方、「日本人とはあいさつする程度」「出身国が同じ人とのつきあいはあるが、日本人とはない」「家族以外の人とのつきあいはない」を合わせた44%の人は日本人社会にとけ込んでいない様子が窺われる。

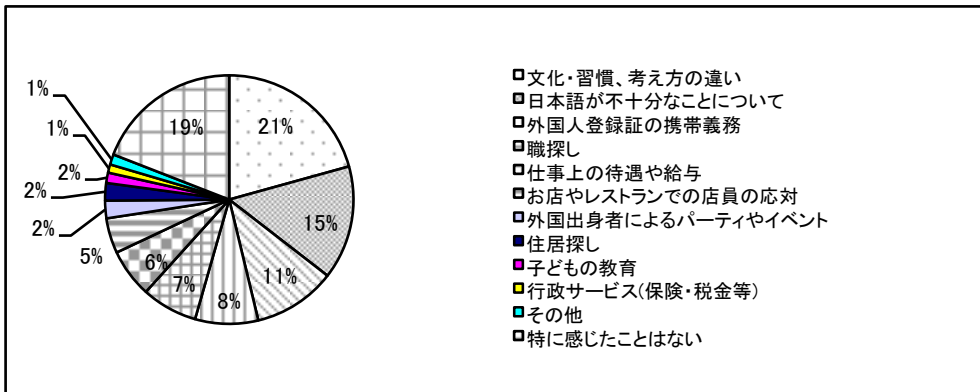
問26 地域などでの活動に参加していますか？または参加しましたか？(複数回答可)



多くの人が地域や学校の行事、いろいろなグループ活動、ボランティア活動に参加している。

7 差別偏見

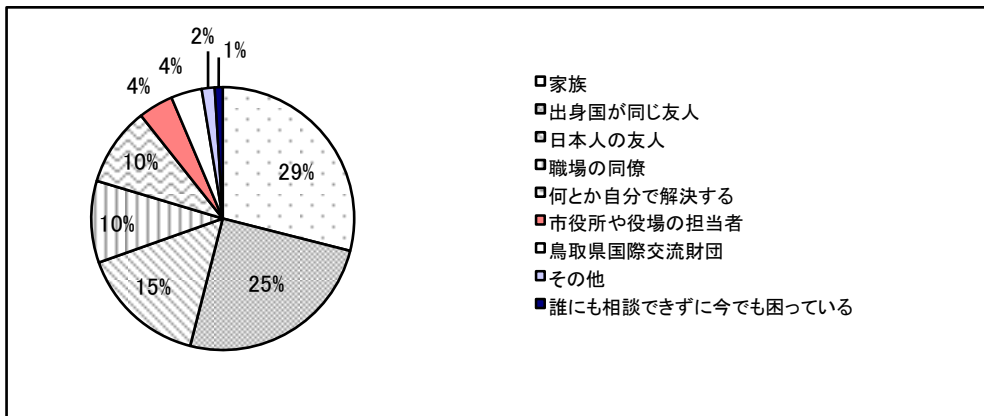
問27 外国出身であることにより差別を受けたり偏見があると感じたことがありますか？(複数回答可)



回答者457人中370人が何らかの差別や偏見を感じている。特に文化や習慣、考え方や言葉、さらに外見が違うことに対する差別や偏見を多く感じており、また社会生活の様々な場面でそれを感じている。

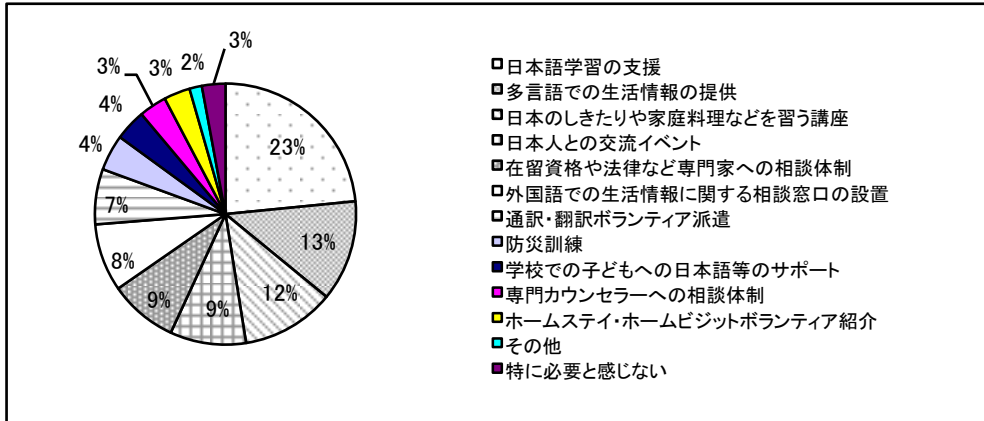
8 求める支援について

問28 困ったとき、誰に相談しますか？(2つまで選択可)



困った時に相談するのは、「家族」の他には「出身国が同じ友人」が多いが、「日本人の友人」や「職場の同僚」など身近な日本人に相談している人も多い。

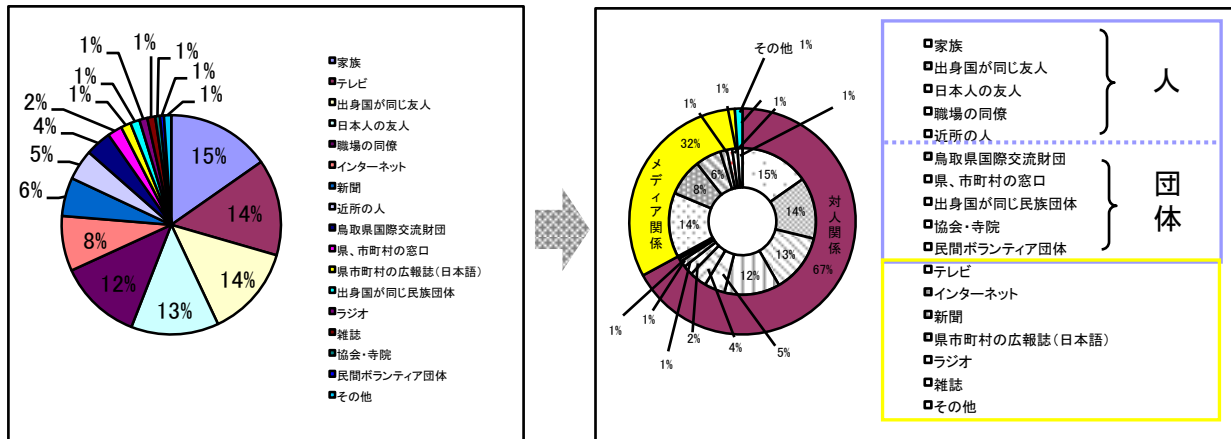
問29 外国出身者に対するどのような支援が必要だと思いますか？(複数回答可)



言葉に関する支援を必要とする人が最も多いが、言葉以外に日本のしきたりや家庭料理なども習いたい人や、日本人と交流する機会を求めている人も多い。その他にも多様な支援が必要とされている。

9 その他

問30 日常生活に関する情報を主にどこから手に入れますか？(2つまで可)



情報の入手先を大きく分けると、「テレビ」や「インターネット」といったメディア関係以上に、家族や友人など直接または各種団体を通して人から情報を得ている人が多い。

問31 あなたが日常生活の中で不便と感じていることを自由に書いてください。

言葉、言語に関する問題

- 毎日、学校からくる手紙が読めない。家族に読んでもらえない時もあり困る。
- 大きな町(米子、鳥取)と違って、田舎は英語で書かれた書類があまりない。
- 英語のHPが役に立つ。
- ごみの分別を外国人にも分かりやすく説明してほしい。
- 言葉が上手でないので、仕事に支障がでる。仕事が見つからない。
- 職場や病院では専門用語を使うので理解できない。カタカナが難しい。
- 財団のクラスで日本語能力試験のクラスを作ってほしい。
- 英語と日本語両方がついている雑誌や勉強するための本の種類が少ない。
- 病院で問診票のサポートをしてほしい。
- 各種案内や公文書等が英語・中国語などメジャーな言語だけなので、英語がわからない外国人は理解できない。
- 自宅に届くお知らせが読めなくて不便。
- 病院に行く場合、言葉が出来ないため誤診などが怖い。

外国人に関わりのある日常行事やごみの回収のような簡単なことで翻訳が必要だと思う。
できれば漢字にふりがなをつけてほしい。
日本人に英語をしゃべってほしい。
運転免許のペーパーテストは日本語なのでとても難しい。中国語もあれば助かる。
地図がわからなくて困った。
日本語ができないから交通機関の利用が不便。
日本語を勉強するところや先生がいない。
時々、家族の言っていることがわからない。子どもの学校のこともわからない。

日本の制度等に関する意見

在留資格の申請が難しい。
出入国の手続きの難しいこと。
親類招へいの手続きが難しいこと。
平日は学校があり、市役所に行けないので証明書類の更新が遅延することがしばしばある。
外国人にも日本の教育制度について教えてくれたら助かる。
病院が土日休みなので不便。(土日開業している病院の情報がない)
厚生年金を帰国する前に返納してもらえよう希望。
学校の行事で親の参加を求められることが多々ある。
常に外国人登録証を持ってないといけない。国籍の書いてある免許証だけではダメ。

差別・偏見に関する意見

何も怪しまれるようなことはしていないのに、日中、近所を歩いているだけでも、警察に身分証の提示を求められ、何の説明もしてもらえない。
毎日頑張っている、心から日本語の勉強もしたいと思っている外国人を平等に見てほしい。
日本社会では、外国人はごく少数派である限り、その存在はとてども軽んじられ、一時的な異物として見られ続ける。
日本人の差別意識は気になっている。心を開いて外国人に接し、受け入れてもらえるよう願っている。
たまに偏見を持たれていると感じる。
日本人には中国人を理解しようとしていない人が多い。

その他

日本人の考え方や生活習慣は自分の国と違うので難しい。
日本人にとって当たり前のことは説明してもらえないときがある。
もっと外国人が参加できるイベントがあるといい。
同じ職場の日本人と交流が出来ない。
自分の国の食材を売っているお店を知らない。
日本国内に関する情報をもっと知りたいが、どうやって知ることが出来るか分からない。
鳥取にいる日本人が外国人に何を求めているのか個人的に話してみたい。
日本人と親しい間柄になるのは難しく、時間がかかる。
ビザの更新にかかる費用が高い。
運転免許がないので生活しにくい。車がないと不便。
物価が高い。
日本の料理は難しい。
困った時、誰も話せる人がいないからさみしい。